

令和 2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472700556	事業の開始年月日	平成27年11月1日
		指定年月日	平成27年11月1日
法人名	株式会社川崎中央プランナー		
事業所名	グループホーム三浦こもれび		
所在地	(〒238 -0115) 神奈川県三浦市初音町高円坊1452		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事を湯煎等ではなく、毎食、職員の手作りとしている。多少、味付けの変化はあると思うが、家庭的に食事が、出来る様にしている。
可能な限り、利用者様がフロアに居られる時間を作る。孤立にならない様に対応、声掛けをしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年2月16日	評価機関 評価決定日	令和3年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇事業所から家族への利用者状況の報告 ・毎月、事業所から利用者家族に「こもれび通信」を送付し、利用者個々の「身体の状況」と「日常生活の様子」を、写真付きで報告している。 家族は通信内容で安心感を持ち、事業所との信頼関係を築いている。 ◇利用者の孤立防止策の実施 ・職員は、利用者が居室にこもって孤立状態にならないよう、積極的に声掛けしリビングに誘導している。体操や合唱、塗り絵、パズル、トランプなど、多様な遊びを用意して、利用者が楽しめるように努めている。
【事業所が工夫している点】 ◇食手作りの食事とおやつを提供 ・食事とおやつは、職員が近隣の店で食材を購入して手作りしている。 また、利用者の要望を聞き、食事の様子を見て、好みの把握に努めている。 ◇家庭菜園の活用 ・事業所内に家庭菜園を設け、収穫した野菜を食材に利用して、食事に彩りを添えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	三浦こもれび
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	特に変化なし。	・管理者と職員が、話し合って作成した事業所理念を本年度も引き継ぎ、法人理念と共に事務所に掲示している。 ・職員は「利用者は家族」との思いで、日々のケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で、地域の連携等は難しくなってしまうている。可能な限り交流はしたいと考えている。	・自治会に加入しており、これ迄は、地域の行事や盆踊りに参加し、また、ボランティアや幼稚園児の来訪があったが、現在はコロナ禍で交流が困難になっている。 ・食材を近隣の店で購入しており、職員は地域との交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中では難しい。地域貢献はしていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見やサービスを向上に活かしている	令和2年12月から、運営推進会議は書面での対応にしている。情報しか伝える事が出来ない。	・2か月ごとに利用者、家族、民生委員、市役所や地域包括支援センター職員、自治会長をメンバーとし運営推進会議を開催している。 ・会議で助言や意見を得ていたが、現在はコロナ禍で、書面での報告となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の中では、なかなか思うように進まない。書類関係等は、情報を伝えながら対応して頂いている。	・運営推進会議メンバーの市担当職員には、議事録を送付している。 ・月2回程度、市担当者に施設の実情を報告し、研修などの情報を得ている。実務の相談に際し、アドバイスをされており、市との連携を築いている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やれている部分とやれていない部分はあるように思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束ゼロマニュアル」があり、虐待・身体拘束防止委員会を設け、虐待廃止に努めている。 ・居室は施錠していない。 ・今年度中に、研修の実施や職員会議で利用者への言葉掛けなどの注意点を話し合う予定である。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置してる。全職員に伝えていきながら対応していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修になかなか参加できていない。 今後の課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かい説明等はしてる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見は聞けていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書に事業所と外部の苦情相談窓口を明記し、契約時に説明している。 ・電話、来訪時、運営推進会議で家族の意見や要望を聞き、必要な情報を職員が共有している。ケアに関する要望がほとんどである。 	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時に確認出来る様にしていきたい。	・管理者は、毎月のカンファレンス時や、日常業務の中で、職員の意見を聞いている。 ・職員の個人面談を今年中に予定しており、職員の意見や提案を聞いて、運営にその反映を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今まで通り、特に変化はしていない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が出来ていない。今後の課題		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	3カ月に1回の連絡会は参加しているが、コロナ禍の中で難しい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで通り、特に変化なし。		

16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで通り、特に変化なし。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで通り、特に変化なし。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで通り、特に変化なし。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで通り、特に変化なし。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通り、特に変化なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はコロナ禍で困難な状況だが、家族や友人の面会は歓迎しており、居間や居室で談話してもらっている。外泊や外出も支援している。 ・電話や手紙を取り次ぎ、利用者の希望があれば、事務所から家族に電話して関係継続を支援している。 	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今まで通り、特に変化なし。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで通り、特に変化なし。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで通り、特に変化なし。	・職員は、利用者との日常の会話から意向を把握し、入浴日を変更するなど、ケアに反映している。 ・意向の把握が困難な場合は、表情や仕草を見て職員間で話し合っって対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで通り、特に変化なし。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療機関と連携とりながら対応している。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>家族との話し合いは出来ていない。介護計画の遅れがでてしまったが、現在は、問題ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画は、利用者の状況を踏まえ、職員・訪問看護師の意見を取り入れて作成している。計画は、6か月毎の作成を目標に、月1回のモニタリングで見直している。 ・変更時は書面や電話で家族に説明し、意向を聞いている。 	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>今まで通り、特に変化ありません。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>今まで通り、特に変化ありません。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>特に変化ありません。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>今まで通り、特に変化ありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と家族の同意を得、全員が協力医をかかりつけとしている。 ・内科医が月2回、看護師と薬剤師が週1回来訪し、利用者の健康状況を職員間でも共有している。 ・必要に応じて専門医の紹介があり、通院を支援している。 	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今まで通り、特に変化ありません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今まで通り、特に変化ありません。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。指針は重要事項説明書に明記している。 ・重度化、看取りは家族と相談、協力医・訪問看護師・医療機関との医療連携で対応を行っている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行えていない。今後の課題		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防に、先日届をしたばかり。今後対応、課題として捉えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含めて、年2回の避難訓練を実施している。 ・「災害時対応避難訓練マニュアル」を作成し職員で共有している。 ・備蓄は飲料水・食料を3日分、毛布などの防災用品をリスト管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・土砂水害訓練が通常どうりできていない状況です。防災用品の見直しと非常災害時の避難方法の共有、地域との防災協力協定の更新が望まれます。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は「接遇マニュアル」「行動指針・プライバシー保護マニュアル」で共有している。管理者はスピーチロックについて、スタッフ会議で注意指導している。 ・個人情報に係わる書類は、書庫で施錠管理をしている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今まで通り、特に変化ありません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今まで通り、特に変化ありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで通り、特に変化ありません。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、利用者の意見を聞いてメニューを作成し、食材を購入し調理している。常食と刻み食がある。また、庭で利用者と一緒に野菜作りをし、メニューに取り入れている。 ・行事食で楽しむ工夫をしている。 	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今まで通り、特に変化ありません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今まで通り、特に変化ありません。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助が必要な利用者は車椅子利用の3名で6名は自立している。 ・介助が必要な利用者には、排泄パターンで把握した時間や落ち着いた様子を見て、職員が声かけ誘導をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今まで通り、特に変化ありません。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回、浴室と脱衣所にエアコンを備え、ヒートショック対策をしている。要望があれば同性介助に対応している。 ・利用者毎にお湯を変え、衛生面に配慮している。季節のしょうぶ湯・柚子湯を楽しみにしている。 	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで通り、特に変化ありません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今まで通り、特に変化ありません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで通り、特に変化ありません。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外出支援は、できていない。天気の良い日はベランダや庭で、日光浴・外気浴をしている。 ・コロナ禍前は、若宮神社、花火大会、花見（河津桜）、ソレイユの丘などに外出していた。 ・家庭菜園で野菜作りをしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今まで通り、特に変化ありません。		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今まで通り、特に変化ありません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの壁に行事の写真、季節の飾り物を掲示し、季節感を出している。安全に配慮し、必要以上に物を置かない工夫をしている。 ・リビングの室温、換気に注意している。和室に掘りごたつがあり、自由に利用者が寛げる場所がある。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今まで通り、特に変化ありません。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通り、特に変化ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、クローゼット、ベッドが設置され、利用者は使い慣れた物品を持込んでいる。家具類の配置、衣替えは家族が行っている。持込み品はリスト表に記録している。 ・居心地よく清潔に過ごせるよう、毎日職員が掃除をしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今まで通り、特に変化ありません。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム
三浦こもれび

作成日 令和3年2月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	・避難訓練・土砂災害訓練が通常どおりできていない状況です。防災用品の見直しと非常災害時の避難方法の共有、地域との防災協力協定の更新が望まれます。	・年度内に最低2回は避難訓練を行う様に計画をたてる。 4月、10月と決めて行う。 防災用品の確認	4月、10月避難訓練を行う。4月、10月に防災用品の在庫、管理場所を確認する。	1年間
2	14	虐待に関する意識、知識が弱い。	研修会を都度行い、少しでも意識を変えていく。「スピーチロック、フィジカルロック」を意識する。	3ヶ月に1回の委員会の他に、研修を行い、自然と意識出来るくらいまで高める。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。